

榎野川河口域・干潟自然再生協議会



ニュースレター

No.19
2023年3月発行

トピックス

『ふしの干潟いきもの募金』の運用

今年度も多くの方から、ご寄附をいただきました。心のこもったご寄附をいただき、誠にありがとうございます。「ふしの干潟いきもの募金」を活用した活動支援により、自然再生活動等を継続することができています。また、企業様・ふしの干潟ファンクラブ・一般のボランティアの皆様など多くの方にご協力いただいております。<ご寄附をいただいた団体>五十音順・敬称略

山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所／山口県職員会館（県庁売店）／カブトガニ研究懇話会／NPO法人野鳥やまぐち 他
<支援対象活動例>



カブトガニ幼生生息調査



アサリ再生のための被覆網のメンテナンス



アサリ稚貝の保護・育成



魚類の生態と生息場の調査研究

<企業様・ファンクラブ等の御協力>



肉食性巻貝と二枚貝の関係調査



(株)伊藤園様



あいおいニッセイ同和損害保険(株)様



積水ハウス(株)山口工場様

ブルーカーボンWGの設立

近年、ブルーカーボン（藻場・浅場等の海洋生態系に取り込まれた炭素）に注目し、クレジット化を試みる動きがあり、榎野川河口域においても、干潟環境を良好に保ちながら、干潟に貯留される炭素量や生物生産量の増加を目指すため、ブルーカーボンについて検討するワーキンググループを設置しました。

2022年度は、目的や活動内容等を協議し、勉強会を開催しました。今後、アマモ場等の現状の把握等から始めていければと考えています。



新型コロナウイルス感染症の影響からの活動再開の動き

2022年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、「榎野川河口干潟再生活動」を中止したり、「カブトガニ幼生生息調査」は、ボランティアの協力を中止し、委員のみでの調査としました。

一方、3月に開催した第33回協議会会議では、対面とウェブのミックス方式で開催し、久しぶりに委員同士で直接意見交換をしたほか、浮田会長の退任記念講演も開催しました。また、榎野川流域では、7月に「ふしの川水系クリーンキャンペーン」が3年ぶりに開催されました。2023年4月には、4年ぶりに榎野川河口干潟再生活動を再開する予定であり、徐々に活動を再開していきたいと考えています。



自然再生活動

カブトガニ幼生生息調査・生物観察会

- 開催日：2022年8月27日（土）、2022年9月8日（月）
- 主催：榎野川河口域・干潟自然再生協議会
- 協賛：あいおいニッセイ同和損害保険(株)山口支店、(株)伊藤園山口支店
- 協力：あいおいニッセイ同和山口支店プロ会
- 備考：ふしの干潟いきもの募金支援対象事業



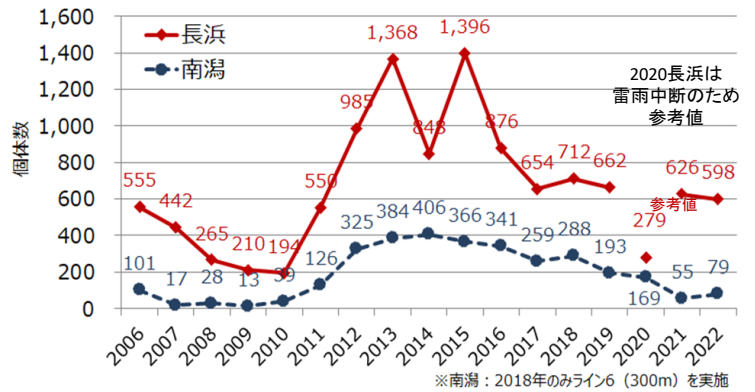
598匹
発見数

山口湾は「生きている化石」カブトガニが生息する貴重な地域です。山口カブトガニ研究懇話会の原田代表が、カブトガニWGのグループリーダーとなり、山口大学やボランティアの協力を受け、生息調査を行っています。今年度も昨年度に引き続き、開催日が新型コロナウイルス感染症の感染拡大時期と重なったため、やむをえず、ボランティアの皆様の協力を中止し、自然再生協議会の委員のみで、かつ、長浜では調査場所を偶数レーンに絞って実施しました。調査後には、今年もかき氷のプレゼントがありました。



場所	開催日	調査参加者	生物観察会参加者
長浜	2022年8月27日	24人	—
南潟	2022年9月8日	11人	—

長浜・南潟のカブトガニ調査結果 <発見個体数>



クロツラヘラサギを守るための海岸清掃

- 開催日：2022年11月5日（土）
- 主催：NPO法人野鳥やまぐち、榎野川河口域・干潟自然再生協議会
- 協力：あいおいニッセイ同和損害保険(株)、あいおいニッセイ同和山口支店プロ会 (株)伊藤園、積水ハウス(株)山口工場
- 備考：サントリー世界愛鳥基金助成事業

170kg
回収ゴミ



絶滅危惧種であるクロツラヘラサギの飛来地である山口湾のうち、周防大橋西側から唐樋漁港前までを、89名の参加者で清掃しました。可燃ごみ100kg、不燃ごみ70kgの合計170kgを回収しました。

環境学習活動

山口市立二島小学校の総合的な学習の時間との連携

今年も協議会の委員である、山口カブトガニ研究懇話会の原田代表と、水産大学校の南條先生と学生の協力を得て、山口市立二島小学校5年生の総合的な学習の時間と連携しました。6月にカブトガニ観察会、11月に干潟の生き物観察会を実施しました。地元に干潟が保全され、多様な生物が生息していることの大切さに気づきました。総合的な学習の発表会では、干潟や二島地域をPRするため、クイズ動画を作成しました。

◆カブトガニ観察会、干潟の生物観察会の様子



環境学習活動

野鳥の教室 @きらら浜自然観察公園

11月と3月に山口市環境政策課が開催しました。きらら浜自然観察公園のレンジャーの解説を聞きながら、野鳥を観察したあとに、自然の素材を使った工作教室も開催しました。



自然再生協議会会議

久しぶりの対面開催 浮田会長の退任記念講演

2022年12月に第32回会議を書面開催し、第32回会議では、第10期協議会委員や、2021年度ふしの干潟いきもの募金の実績報告及び2022年度のふしの干潟いきもの募金の支援対象活動の方針案等について協議しました。

2023年3月には、第33回会議を対面とウェブのハイブリッド方式で開催しました。第33回会議では、コロナ禍での自然再生協議会の活動概要の報告や、これまでのふしの干潟いきもの募金の支援対象活動について、改めて概要を報告していただきました。そのほか、ブルーカーボンワーキンググループの活動状況の報告がありました。出席者同士で意見交換を行うことができ、理解を深めたり、新たな着眼点に気づくことができたと感じました。

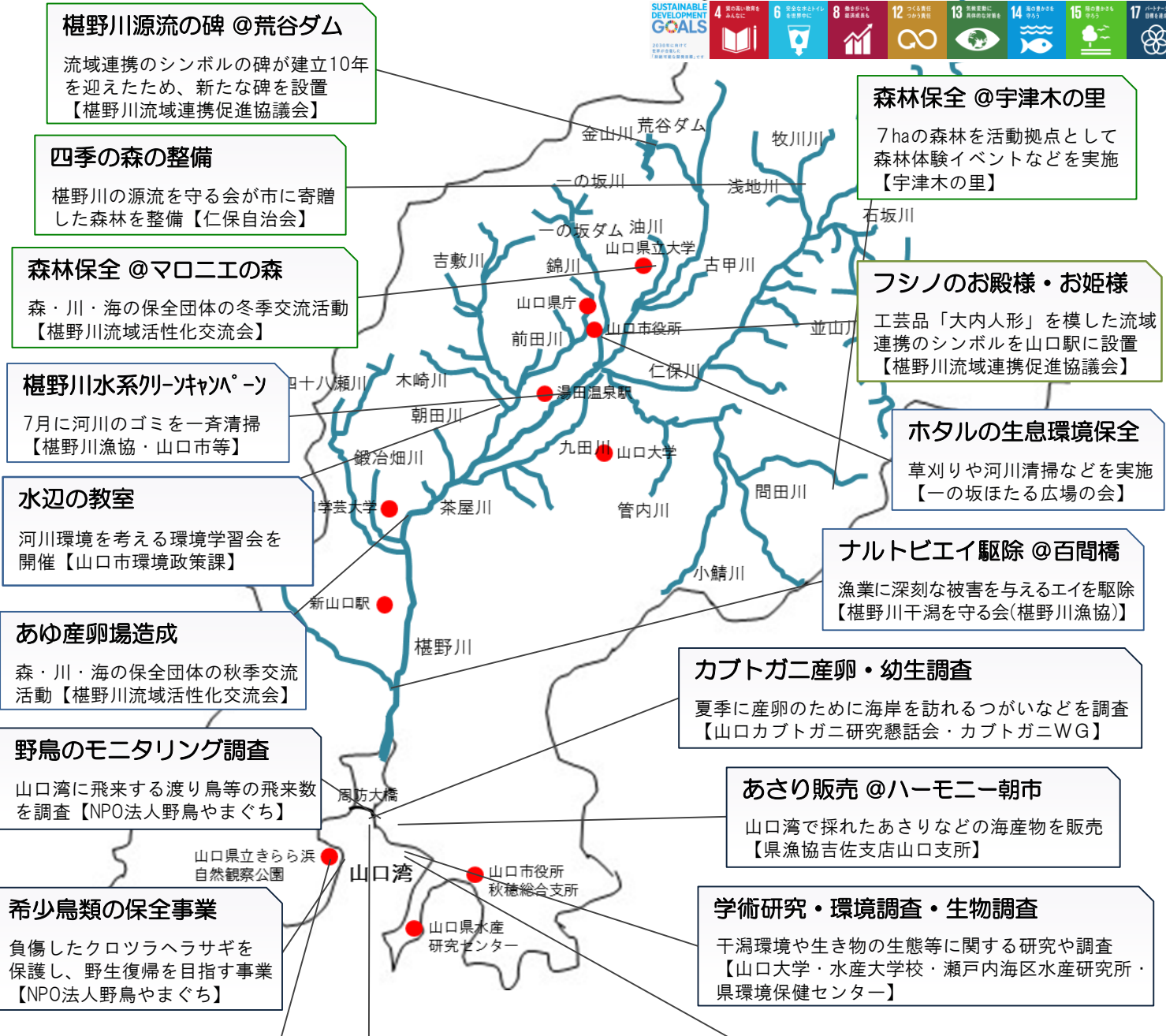
また、一般公開講演として、浮田会長の退任記念講演『榎野川河口域・干潟自然再生協議会への関わりと今考えていること』を開催しました。浮田会長の山口大学時代の調査・研究から、自然再生協議会での活動や、現在取り組まれている活動に至るまでの紹介があり、特に社会環境も含めた自然環境の研究や、流域環境管理などのように、広い視点から環境をとらえる考え方について紹介されました。また、インドネシアの JICA 青年研修や、海岸清掃、マイクロプラスチックの展示など、最近の取組も紹介され、E S D（持続可能な開発のための教育）の大切さも説かれました。

<第33回協議会 次第抜粋>

- ・コロナ禍での自然再生協議会の活動概要の報告（事務局）
- ・環境 DNA および UAV によるカブトガニの産卵状況及びカブトガニ幼生の生息数調査方法の検討（山口大学 山本委員）
- ・干潟に生息する肉食性巻貝と二枚貝の捕食-被食関係の解明-榎野川河口干潟における貝類の生産構造-（水産大学校 南條委員）
- ・干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究 Part1「山口湾干潟のクロダイ *Acanthopagrus schlegelii* の食性に変化はあったか？ -アサリが多獲された 1970 年代と獲れなくなった現在との比較」（重田委員） Part2「山口湾干潟のアサリ漁場における被覆網の効果（3年間） 底質、アサリおよびベントスへの影響」（辻野委員）
- ・南潟のアサリ等定点モニタリング結果及びアサリ保護・育成手法の効率化に係る検討について（環境保健センター）



榎野川流域の活動紹介



<四季の森>

<ふしの川水系クリーンアップ>

<県立博物館への原田委員の出展>

【お問い合わせ先】

榎野川河口域・干潟自然再生協議会 事務局（山口県環境生活部自然保護課）

TEL : 083-933-3060 FAX : 083-933-3069 Mail : a15600@pref.yamaguchi.lg.jp

※ 会議資料やイベント情報等は、山口県自然保護課、山口市環境政策課のホームページで公開しています。

Facebook

県HP

